

前月(703億円)を25億円下回った。これは地方債が発行手続きの関係から前月比31億円の減少をみたことが主因で、事業債は439億円と前月比18億円の増加となった。

## 実体経済の動向

### ◇生産、出荷は一高一低のうちにも依然増加基調

(生産——2月著増のあと3月は小幅反落)

鉱工業生産(季節調整済み)は、2月に前月比+2.5%と著増したあと、3月(速報)は-0.2%と小幅ながら減少した。このように生産は昨年11月以来月々一高一低をくり返しており、3月の減少も、2月著増の反動による面が少なくないとみられる。ちなみに3ヵ月移動平均値でみても、生産は前月比12月+0.4%、1月+1.5%、2月+0.6%と増勢を持続しており、これまでの生産活動の増加基調に大きな変化が生じているとはみられない。

3月の生産動向を特殊分類別にみると、生産財(前月比+1.2%)を除き各財とも減少した。このうち、一般資本財の減少(-2.6%)は、化学機械、合成樹脂加工機械、圧縮機・送風機および工作機械等前月著増した大型受注機種種の減少が大きく響いており、建設資材(-0.8%)についても、前月、好天による建設工事進捗などを反映して大幅に増

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		44 年				45 年		
		1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1月	2月	3月
鉱 指	数	171.7	182.5	190.1	199.2	200.9	205.9	—
工	前期(月)比	1.1	6.3	4.2	4.8	-0.5	2.5	-0.2
業	前年同期(月)比	15.5	16.8	17.1	17.7	18.0	18.6	—
投 資 財		0.2	5.4	4.8	7.2	3.0	4.0	-1.9
資 本 財		-0.7	5.2	5.4	7.2	5.1	4.1	-2.7
同 (輸送機械を除く)		1.5	7.5	2.7	10.2	7.4	1.2	-2.6
輸 送 機 械		-3.9	0.3	9.8	1.8	1.8	10.1	—
建 設 資 材		1.9	5.9	3.8	6.8	-1.5	2.4	-0.8
消 費 財		-0.8	8.5	2.7	3.2	-6.3	2.9	-0.3
耐久消費財		1.5	7.8	5.0	6.6	-10.9	4.3	-0.3
非耐久消費財		-0.3	6.2	0.9	1.5	-0.4	0.4	-0.3
生 産 財		3.0	5.4	4.1	4.8	0.4	1.3	1.2

(注) 1. 通産省調べ、45年3月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

加した橋りょう等の反動減が主因となっている。資本財輸送機械も、前月、船舶、鉄道車両を中心に増加したあと、3月は中型乗用車およびトラックを主に減少したが、これは自動車損害賠償責任保険料率の引上げに伴い著増した在庫の調整がまだ十分進んでいないことも影響しているとみられる。耐久消費財も、持越し在庫調整中のエアコンディショナー、卓上扇風機等夏物家電製品のほか、需要期明けの石油ストーブ、電気こたつ等の減少から前月比-0.3%の微減となった。また、非耐久消費財も、陶磁器、金属製品等を中心に-0.3%と微減を示した。この間、生産財は前2ヵ月減少した鉄鋼が出銑比の向上などから増産となったほか、非鉄および石油・石炭製品等も小幅の上昇をみたため、+1.2%の増加となった。

#### (出荷——増勢持続)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、2月に前月比+0.3%と微増のあと、3月(速報)は+5.3%と大幅に増加した。もっとも、これには船舶の引渡し集中に伴う資本財輸送機械の大幅増加がかなり響いており、例月フレの大きい船舶を除くと+0.8%の増加となる。

特殊分類別に3月の出荷動向をみると、建設資

材が減少したのを除いて、各財とも軒並み増加し、なかでも生産財は前2ヵ月連続減少した鉄鋼の大幅増加を中心に+2.1%とかなりの増加を示した。また一般資本財も、化学機械、合成樹脂加工機械等前月著増した大型受注機種や農業機械が減少したものの、2月に伸び悩んだ銅電線ケーブル、標準モーターおよび変圧器等の持直しによって増加した。耐久消費財は+0.4%と微増を示したが、これは万博開催が響いているカラーテレビの好伸と新車発売に伴う小型乗用車の著増によるもので、2月大幅増加の電気冷蔵庫、白黒テレビ、卓上扇風機等の家電製品は減少した。非耐久消費財は売れ行き好調の灯油や万博関連需要増大の紙が引き続き増加したこともあって、+0.6%と微増を示した。一方建設資材は、2月好伸の橋りょう、みがき板ガラス等が減少したほか、セメントおよび建設用陶磁器等窯業土石製品も微減したため-1.3%と減少をみた。

#### (製品在庫——製品在庫率は微落傾向)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、1月-0.1%、2月-0.7%と前2ヵ月微減を示したあと、3月(速報)は+0.6%の微増にとどまり、3月末の在庫

#### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44 年				45 年		
	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1月	2月	3月
鉱 指 数	168.5	178.5	184.7	192.5	199.0	199.6	—
工 前期(月)比	3.6	5.9	3.5	4.2	1.4	0.3	5.3
業 前年同期(月)比	14.9	16.2	17.6	18.0	19.9	19.3	—
投 資 財	3.6	7.9	1.0	5.4	6.2	1.7	11.5
資 本 財	4.0	8.5	0.3	5.5	9.3	2.6	15.8
同 (輸送機械を除く)	1.4	7.3	4.8	5.9	8.4	0.6	1.4
輸 送 機 械	10.0	9.0	8.2	5.1	13.1	6.1	—
建 設 資 材	2.3	6.9	3.9	5.4	1.5	0.4	1.3
消 費 財	4.6	4.8	3.6	3.5	3.0	1.3	2.1
耐 久 消 費 財	5.7	3.1	9.6	4.8	9.9	1.6	0.4
非 耐 久 消 費 財	2.8	5.1	1.4	3.0	0.3	1.3	0.6
生 産 財	2.6	6.0	5.2	3.7	1.1	0.8	2.1

(注) 1. 通産省調べ、45年3月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

#### 鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	44 年				44年 45 年		
	3月	6月	9月	12月	1月	2月	3月
鉱 指 数	159.3	168.3	173.2	186.4	186.3	185.0	—
工 前期(月)末比	2.1	5.6	2.9	7.6	-0.1	-0.7	0.6
業 前年同期(月)末比	21.1	23.5	21.2	20.3	19.2	16.3	—
製 品 在 庫 率	92.5	93.2	91.8	95.0	93.6	92.7	88.5
投 資 財	4.7	3.4	0.4	11.0	2.0	-0.6	1.7
資 本 財	5.9	1.3	2.7	14.8	5.9	-2.5	2.8
同 (輸送機械を除く)	8.8	2.0	4.9	14.1	3.1	2.0	2.2
輸 送 機 械	5.5	16.2	9.5	18.3	17.5	-16.8	—
建 設 資 材	3.6	9.3	4.8	6.7	3.0	2.2	8.0
消 費 財	4.2	8.4	6.7	7.5	2.5	-2.9	0.3
耐 久 消 費 財	3.7	18.8	9.8	5.7	3.9	-0.9	0.6
非 耐 久 消 費 財	7.6	2.8	1.1	2.4	0.6	-4.2	0.4
生 産 財	8.6	4.3	0.3	7.4	0.7	1.1	0.8

(注) 1. 通産省調べ、45年3月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

水準は昨年12月末をわずかながら下回った。3か月移動平均値でみても、12月+1.3%、1月+0.3%、2月-0.1%と伸び率が小幅化しており、製品需給は大勢としては引き続き堅調に推移しているものとみられる。

特殊分類別にみると、一般資本財は、2月に事務用機械、機械用プレス等金属加工機械を主体に前月比+2.0%の増加を示したが、3月は銅電線ケーブル、トラクターおよび標準モーター等の減少から-2.2%とかなり減少した。資本財輸送機械は、前月-16.8%と大幅減少をみたのに続き、3月も中型乗用車、小型トラックを中心にかんりの減少をみた模様である。また生産財も、2月+1.1%のあと、3月は+0.8%の増加にとどまった。これは輸出の鈍化を映じた真空管等電子部品などの増加にもかかわらず、鉄鋼が普通鋼鋼材を主体に減少し、また化学製品でも需要期を控えた化学肥料を除き減少を示したものが多かったためである。耐久消費財は、2月減少を示したエアコンディショナー、卓上扇風機等の夏物家電製品の増加を主体に+0.6%と微増した。この間、建設資材が2月+2.2%に続き3月も+8.0%と著増したのが目だっているが、このうち、セメントはス

ト備蓄が主因ながら、アルミサッシやコンクリート管等窯業二次製品等では需給がやや緩和してきたことも響いているものとみられる。

以上のような出荷、在庫の動きから、3月の製品在庫率指数は88.5と2月(92.7)を大きく下回り、出荷から例月フレの大きい船舶を除いてみても91.5(2月91.7)と年初来の微落傾向が続いている。

#### 製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	44 年		45年	45 年		
	7～9月	10～12月	1～3月	1月	2月	3月
製 造 工 業	4.2	5.7	2.9	0.8	- 0.7	1.9
国 産 分	4.0	5.7	3.0	0.7	- 0.6	1.8
素 原 材 料	3.2	5.4	1.0	1.5	- 3.5	0.8
製品原材料	4.1	5.8	3.2	0.7	- 0.3	2.0
輸 入 分	5.9	5.2	3.2	2.3	- 2.1	3.8
素 原 材 料	6.4	5.7	3.0	1.7	- 1.9	3.9
製品原材料	0.6	- 1.3	5.2	7.6	- 5.0	3.0

(注) 通産省調べ、45年3月は速報。

#### 販 売 業 者 在 庫 の 推 移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年			44年	45 年	
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
総 合 指 数	145.6	145.9	157.8	157.8	164.6	164.1
前期(月)末比	- 0.9	0.2	8.2	4.0	4.3	- 0.3
素 原 材 料	-14.0	15.5	11.3	3.9	- 0.1	- 2.7
製 品	0.6	- 1.5	7.7	4.1	4.7	- 0.2

(注) 通産省調べ、45年2月は暫定。

#### 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44 年		45年	45 年		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
在 庫 指 数	146.3	149.9	155.8	152.2	154.4	155.8
前期(月)末比	5.5	2.5	3.9	1.5	1.4	0.9
国 産 分	4.2	2.4	4.6	1.7	1.9	1.0
素 原 材 料	1.1	0.6	0.5	- 2.6	2.5	0.5
製品原材料	5.8	2.9	5.0	2.9	1.2	0.8
輸 入 分	9.3	3.9	2.0	1.7	- 1.0	1.3
素 原 材 料	8.7	2.9	2.5	1.9	- 1.1	1.7
在 庫 率 指 数	79.3	76.6	78.0	77.1	78.8	78.0
国 産 分	75.2	72.6	74.5	73.3	75.1	74.5
素 原 材 料	82.9	79.1	80.4	75.9	80.7	80.4
製品原材料	75.6	73.2	75.1	74.8	75.9	75.1
輸 入 分	93.0	91.6	89.9	91.1	92.1	89.9
素 原 材 料	94.4	91.5	90.5	91.7	92.4	90.5

(注) 通産省調べ、45年3月は速報。

(設備投資——機械受注は2月著増のあと3月は微減)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷は、2月に前月比-0.6%と微減のあと、3月(速報)は、+1.4%と引き続き増勢を示しており、前年同月比でも+30.6%(推定)と水準を高めている。品目別にみると、銅電線ケーブル、標準モーター等がかなりの増加を示したほか、運搬機械、建設機械等も引き続き増加した。一方化学機械、圧縮機・送風機、圧延機械等大型受注機種はかなり減少したが、これは完工の一時的なフレによるところが大

きいとみられる。もっとも、需要一巡の農業機械、一部汎用機械(ポンプ、汎用旋盤)などには荷もたれ感もみられる。

先行指標である機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み)は、前月比-1.8%と微減を示したが、前月大幅増加(+36.4%)のあとだけに水準としては非常に高く、前年同月を+44.4%も上回っている。この結果1~3月を通じてみると、前期比+16.4%と四半期中の伸び率としては42年1~3月(+24.5%)以来3年ぶりの大幅な増加となった。3月の減少の主因は、前月著増の電力を主体とする非製造業の反動減(船舶を除く、2月+86.9%のあと3月-20.9%)であり、製造業は鉄鋼、化学、紙・パルプを中心に+10.7%と、2月(+11.5%)に続きかなり大幅な増加を示した。もっとも1~3月平均では、非製造業の前期比+39.7%に対し、製造業は+3.9%とやや伸び悩みぎみである。この間、建設工事受注(民間産業、季節調整済み)は、1月+13.3%のあと、2月-3.2%、3月-0.7%といくぶん鈍化きみながら、1~3月を通じてみると、前期比+8.0%と昨年10~12月(同+10.8%)に続き高い伸びを示している。

#### 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	44 年			45 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
民 需	2,113	2,224	2,739	2,295	3,228	2,695
	(+ 0.3)	(+ 5.2)	(+23.2)	(+ 8.6)	(+40.6)	(- 16.5)
同 (船舶を除く)	1,986	2,048	2,385	1,932	2,636	2,587
	(+ 7.4)	(+ 3.1)	(+16.4)	(- 3.1)	(+36.4)	(- 1.8)
製 造 業	1,252	1,358	1,410	1,263	1,409	1,559
	(+ 9.7)	(+ 8.5)	(+ 3.9)	(- 4.2)	(+11.5)	(+10.7)
非 製 造 業	864	859	1,360	1,031	1,906	1,143
	(- 10.2)	(- 0.6)	(+58.3)	(+32.0)	(+84.8)	(- 40.1)
同 (船舶を除く)	739	706	986	680	1,271	1,006
	(+ 4.5)	(- 4.5)	(+39.7)	(+ 0.1)	(+86.9)	(- 20.9)

(注) 経企企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

#### ◇商品市況は品目により区々ながら、総じて落着きぎみに推移

4月にはいつてからの商品市況をみると、天然

繊維、化学品、石油等は引き続き値上がりないし強含みを示したが、反面鉄鋼が続落したほか、合繊長繊維、上質紙等も弱含みをたどり、また、高値を続けてきた非鉄金属も月末にかけて軟化した。

このうち、天然繊維の値上がりは、投機資金の流入などの要因があるにせよ、流通段階やユーザーが早くから在庫圧縮に取り組んできて、その調整が一巡したことや、需要期入りから手当て買いが若干増加していることも値上がり要因となったようである。また、化学品では、これまでのメーカーの製品価格引上げ交渉が、需給の堅調を背景に進展をみせているものが多い。

これに対し、鉄鋼、木材等にあつては、金融の引き締まりに伴うユーザー、問屋筋の仕入れ手控えなどから荷動きは伸び悩みぎみで、一部に先安観も生じている。また、非鉄金属の軟化も直接的には海外相場の値下がり契機であるが、国内の需給実勢はこのところ引きゆるみ傾向にあり、市場人気も盛り上がりを欠いている。このような状況下、メーカー筋では、賃金上昇等のコスト・アップ傾向に対処してわずかな値下がりも極力避けたい意向を強めており、軟化品目について生産調整を実施(H形鋼)するとか、輸出に注力(鉄鋼、合繊)ないしは、出荷抑制に乗り出す(生コン)などの対策に取り組む動きが目だっている。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……条鋼類、鋼板類ともじり安商状をたどった。これは特約店、ユーザー筋が金融の引き締まりから仕入れ態度を慎重化させているのが主因で、ひとところのようなおもわく的な買い進みはほとんどみられず、一部には、先安見越しから引取りを繰り延べるなどの事例も散見される。こうした状況下、メーカーでは在庫増加の目だつH形鋼につき減産を発表、また大手商社でも再びスポット輸出に注力する(厚板、冷延薄板)などの動きがみられる。

繊維……合繊長繊維(ポリエステル)は軟調に推移したが、綿糸、人絹糸、生糸等は値上がりし

た。綿糸等の値上がりは、秋冬物生産最盛期入りに伴う手当て買いや、定期市場における大手仕手の介入、投機筋の買いなどの要因によるが、流通・機屋段階での在庫調整がおおむね一巡しつつあることもかなり響いているとみられる。一方、合繊長繊維については、先行きの生産増加見込みや、輸出環境の悪化からユーザー、商社の仕入れ態度は慎重化している。

非鉄……銅が月末にかけて軟化。これは、海外相場が反落に転じたうえ、国内においてもユーザーの引取り態度が消極的で、精練能力の増加もあって山元在庫が累増するなど需給関係が引きゆるんでいるためである。かかる状況下、業界では、地金の輸出により過剰在庫を整理したい意向を強めている。

石油……品薄の目だつC重油では、鉄鋼向け大口分の値上げが決まり、メーカーでは引き続きセメント、化学向けなどについても値上げの意向を固めている。灯油も強含み。一方、ガソリンは横

ばい。

セメント……市況は保合いに推移しているが、出荷が民需、官公需向けとも比較的好調なうえ、重油、骨材等の先高が見通されることもあって、メーカーでは売り腰を強めている。

木材……金融の引き締まりを映じて扱い業者の仕ぶりが慎重なため、商いは凡調で大勢弱含み。ただ南洋材および需要堅調の合板は堅調持続。

化学……内外需の好伸から需給ひっ迫基調が続いており、硫酸、硝酸、カーバイドについては、メーカーの製品価格引上げ交渉が進められている。

紙……万国博関連需要がおう盛なコート紙のほか、純白ロール紙が値上がりしたが、上質紙は供給力増加傾向を映じて反落。板紙でもこれまで堅調に推移してきた段ボール原紙が新設備稼働から騰勢一服となった。

砂糖……季節需要の盛り上がりや、外糖高もあり強含み。

### 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年比上昇率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)								
		43年度 平均	44年度 平均	45 年			45 年 3 月			45 年 4 月		
				1 月	2 月	3 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	
総 平 均	100.0	+ 0.6	+ 3.2	+ 0.4	+ 0.5	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.3	- 0.1	
食 料 品	15.7	- 5.2	+ 4.2	- 0.6	- 0.1	- 0.5	- 0.4	+ 0.2	保 合	- 0.1	- 0.3	
繊 維 品	10.7	+ 0.9	+ 0.4	+ 0.9	+ 0.4	+ 0.7	+ 0.5	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.8	+ 0.2	
鉄 鋼	9.7	- 4.4	+ 11.3	+ 2.7	+ 2.3	+ 0.3	保 合	- 0.3	保 合	- 0.3	- 0.4	
非 鉄 金 属	4.4	- 0.5	+ 18.2	- 0.2	- 1.0	+ 2.9	+ 1.0	+ 0.6	+ 2.4	+ 0.5	+ 0.4	
金 属 製 品	3.8	+ 0.7	+ 3.0	+ 0.2	+ 0.4	+ 0.5	+ 0.2	保 合	+ 0.5	+ 0.3	保 合	
機 械 器 具	22.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.3	+ 0.2	保 合	+ 0.1	保 合	+ 0.2	+ 0.1	
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.3	- 1.5	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.5	- 0.2	+ 0.4	+ 0.3	+ 0.4	- 0.5	
木材・同製品	6.2	+ 5.2	+ 3.0	保 合	+ 0.3	+ 0.4	+ 0.7	- 0.4	+ 0.5	+ 0.7	- 0.2	
窯 業 製 品	3.0	+ 1.8	+ 2.3	+ 0.3	+ 0.7	+ 0.7	+ 0.4	- 0.1	+ 0.4	+ 0.4	+ 0.1	
化 学 品	7.6	- 2.2	- 0.4	保 合	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.3	保 合	
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.9	+ 3.7	+ 0.6	+ 4.0	+ 0.9	+ 0.2	保 合	保 合	+ 0.4	保 合	
雑 品 目	7.9	+ 0.9	+ 2.7	+ 0.5	+ 0.8	+ 0.3	+ 0.2	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	
工 業 製 品	82.0	+ 0.3	+ 3.0	+ 0.6	+ 0.6	+ 0.5	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.4	+ 0.1	
うち 大 企 業 性	59.6	- 0.4	+ 2.3	+ 0.5	+ 0.3	+ 0.5						
中小企業性	21.0	+ 2.2	+ 4.4	+ 0.8	+ 1.0	+ 0.7						
非 工 業 製 品	18.0	+ 2.1	+ 4.1	- 0.4	+ 0.3	- 0.2	- 0.2	- 0.1	+ 0.3	- 0.2	- 0.7	

(注) 本行調べ。

## (卸売物価——騰勢持続)

3月の卸売物価は、総平均で前月比+0.4%と引き続き大幅な上昇を示し、この結果、昨年2月以来14か月にわたる連騰を記録した(続騰期間としては、朝鮮動乱時<25年3月~26年4月>と同期間)。類別では、食料品(干のり、鶏卵)が続落したほか、これまで根強い上昇を続けてきた鉄鋼(普通鋼鋼材)も前月比+0.3%(前月同+2.3%)と騰勢が鈍化した。反面非鉄金属(銅、電線、伸銅品)、繊維品(原糸、織物)、木材・同製品(合板、家具)、紙・パルプ・同製品(段ボールシート)が上昇し、また機械器具、金属製品もコスト高などによる製品価格の上げがあいつぎ、続騰した。産業別分類では、非工業製品は食料品の値下がりから前月比-0.2%と微落したが、工業製品は同+0.5%と続騰した。

この結果、卸売物価は44年度平均で前年度比+3.2%と31年度(+6.2%)に次ぐ高い上昇となった(年度間では+5.0%、31年度+7.0%)。類別には石油・石炭・同製品、化学品が微落したほかは鉄鋼(+11.3%)、非鉄金属(+18.2%)、食料品を含めた以上3品目の上昇寄与率78.1%をはじめ軒並み上昇した。産業別分類でみると、中小企業性製品が騰勢を強めたほか、大企業性製品も上昇に転じたため、工業製品が43年度までとは様変わりになり上昇(前年度比+3.0%)したのが大きな特色で、また非工業製品も同+4.1%の上昇となった。

4月上旬は、総平均で前旬比+0.3%とかなりの上昇となった。類別では食料品、鉄鋼が小幅ながら下落したが、そのほかでは繊維品、木材・同製品、機械器具、非鉄金属等が軒並み上昇した。中旬は、総平均で前旬比-0.1%と昨年6月中旬以来30旬ぶりに下落した。類別では、鉄鋼、食料品、石油・石炭・同製品が続落し、前旬上昇した化学品、紙・パルプ・同製品等は保合いとなった。

## (3月の工業製品生産者物価——続騰)

3月の工業製品生産者物価は、総平均で前月比+0.5%の上昇となった。類別では、合成繊維を

## 工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)			
		43年度 平均	44年度 平均	45年			
				1月	2月	3月	
総 平 均	100.0	+0.3	+2.4	+0.6	+0.5	+0.5	
食 料 品	12.6	+5.7	+2.4	-0.1	+0.4	保 合	
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-1.1	+2.3	-0.7	+3.0	
合 成 繊 維	1.4	-6.4	-3.1	-0.3	-0.1	-0.3	
織 物	2.8	-0.5	+1.3	+1.2	-0.2	+0.1	
織 維 二 次 製 品	3.2	+5.3	+3.4	+1.1	+0.4	+1.1	
普 通 鋼 鋼 材	7.2	-5.3	+10.2	+2.4	+2.0	+0.2	
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	+3.0	+1.8	+0.3	+0.5	
非 鉄 金 属	4.4	-0.5	+16.5	+0.6	-1.6	+2.7	
金 属 製 品	4.6	+0.6	+2.2	保 合	+0.3	+0.4	
一 般 機 械	10.4	+2.1	+1.6	+0.8	+0.3	+0.4	
輸 送 機 械	8.3	-1.6	-1.2	保 合	+0.1	保 合	
電 気 機 械 器 具	9.1	-1.0	+0.1	+0.1	+0.6	保 合	
石 油 ・ 石 炭 製 品	3.7	-1.3	-1.6	+0.5	+0.2	保 合	
木 材 ・ 同 製 品	5.0	+5.1	+3.5	+0.7	+0.4	+1.0	
窯 業 製 品	3.4	+0.9	+1.4	+0.1	保 合	+0.2	
化 学 品	7.8	-2.6	-1.0	+0.1	+0.1	+0.1	
紙 ・ パルプ ・ 同製品	4.5	-0.1	+2.9	+1.3	+2.5	+0.7	
雑 品 目	6.1	+0.2	+2.7	+0.7	+1.3	+0.5	

(注) 本行調べ。

除き天然繊維(綿糸、生糸)、繊維二次製品(セーター、メリヤスはだ着)、非鉄金属(銅)、木材・同製品(木製品)、金属製品、機械器具等かなりの品目が上昇を示した。このように年初来、生産者物価は月率+0.5%とかなりのテンポで上昇を続けているが、これは人件費高や素材高の製品価格への転嫁傾向が広範化しているためで、値上りが基礎資材から高次加工製品に波及している。

## (4月の消費者物価——大幅上昇)

4月の消費者物価(東京、速報)は総平均で前月比+0.9%と引き続き大幅上昇をみた(前年同月比で+8.0%)。費目別にみると、食料費が野菜、加工食品の上昇から続伸したほか、雑費(教育、教養娯楽)、被服費(衣料、身回品)等もかなり上昇し、住居費(修繕、家賃地代)、光熱費も小幅ながら上昇を示した。なお、これまで上昇の大きな要因となっていた季節商品は、生鮮魚介、くだもの反落から騰勢鈍化模様となった。

## (3月の輸出入物価——交易条件は悪化)

3月の輸出物価は総平均で前月比+0.3%と引き続き上昇したが、昨年秋から本年1月ごろまでの上昇テンポに比べれば騰勢はやや鈍化している。類別では食料品、金属・同製品、機械器具等が続騰したが、化学製品、非金属鉱物製品は下落した。一方、輸入物価も前月比+0.6%とかなり上昇した。類別では繊維品(原毛、原綿)、雑品目(天然ゴム)が下落したほかは、食料品、金属、機械器具、化学製品等軒並み上昇した。この結果、交易条件指数は前月比-0.2ポイント下落した。

44年度平均では、輸出物価は前年度比+4.0%と34年度(+5.7%)に次ぐ高い上昇となった。これは世界的な需給引き締まりを背景に、鉄鋼などの輸出価格が大幅上昇(金属製品+10.5%、前年度-0.3%)をみたほか、機械器具、食料品等も反騰したため。一方、輸入物価も前年度比+3.8%と反騰(前年度-0.3%)し、38年度(+4.4%)に次ぐ高い上昇となった。これは鉄鋼原料がわが国の買付け急増もあって急騰し、非鉄金属も産銅国の政情

不安などから高値を続けたことによるものである。

## ◇国際収支はかなりの黒字基調を持続

3月の国際収支は、貿易収支が大幅黒字となったため、貿易外・移転収支の赤字幅が期末事情を主因に拡大したほか、長期資本収支も本行の世界銀行に対する円貸付実施などから大幅流出超となったものの、総合では167百万ドルの黒字となった(前月同97百万ドル)。

貿易収支は、年初来増勢を強めてきた輸入がさらに水準を高めたものの、輸出が引き続き順調な伸びを維持したため、月中では399百万ドルの黒字、季節調整後でも317百万ドルとほぼ前月並みの大幅黒字となった。また、長期資本収支は、175百万ドルの流出超(前月同52百万ドル)となった。これは、本邦資本が本行の世界銀行に対する円貸付実施(360億円、前月も同額)、延払信用(ネット95百万ドル、前月同40百万ドル)および円借

## 国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	44 年		45年	45 年			前年 3 月
	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	1月	2月	3月	
経 常 収 支	678	772	76△	191	91	176	249
貿易収支	1,072	1,153	587△	42	230	399	428
輸 出	4,160	4,484	4,048	1,060	1,338	1,650	1,367
輸 入	3,088	3,331	3,461	1,102	1,108	1,251	939
貿易外収支	△ 356	△ 340	△ 451	△ 140	△ 137	△ 174	△ 139
移転収支	△ 38	△ 41	△ 60	△ 9	△ 2	△ 49	△ 40
長期資本収支	△ 106	△ 185	△ 436	△ 209	△ 52	△ 175	△ 52
基礎的収支	572 (343)	587 (339)	△ 360 (49)	△ 400 (1)	39 (129)	1 (81)	197 (103)
短期資本収支	62	140	182	58	33	91	17
誤差脱漏	24△	17	162	62	25	75△	24
総 合 収 支	658	710△	16△	280	97	167	190
金 融 勘 定	658	710△	16△	280	97	167	190
外 貨 準 備	137	270	372	121	13	238	127
増 減 他	521	440△	388△	401	84△	71	63
外 貨 準 備 高	3,226	3,496	3,868	3,617	3,630	3,868	3,213
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	391	694	395	419	469	395△	830

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。

2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。

3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

## 消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

		ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上年率)			最近 月の 前年 同月 比		
			43年 度 平均	44年 度 平均	45 年					
					2月	3月	4月			
消費者物価	東京	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.4)	+5.2 (+5.6)	+6.6 (+5.6)	+0.8 (+0.3)	+1.2 (+0.3)	+0.9 (+0.7)	+8.0 (+6.0)	
		食料	40.9	+6.5	+8.1	+1.4	+2.1	+0.7	+9.9	
		住居	10.7	+2.4	+3.0	-0.1	+0.3	+0.2	+5.1	
		光熱	4.5	+0.3	+0.3	+0.1	-0.1	+0.1	+0.8	
		被服	13.0	+5.5	+7.2	-0.1	+1.3	+0.3	+9.9	
	全国	雑費	31.0	+5.3	+6.3	+0.6	+0.4	+1.5	+6.4	
		総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.4)	+4.9 (+5.3)	+6.4 (+5.2)	+0.7 (+0.3)	+0.8 (+0.2)		+8.3 (+5.7)	
		上 5 万 都 市 以 上	100.0 (91.3)	+4.9 (+5.3)	+6.6 (+5.3)	-0.7 (+0.2)	+0.9 (+0.4)		+8.4 (+5.7)	
		輸出入物価	輸 出		+0.6	+4.0	+0.4	+0.3		+6.2
			輸 入		-0.3	+3.8	+0.8	+0.6		+5.2
輸 入 交 易 条 件			+0.9	+0.2	-0.4	-0.2		+1.0		

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

2. 45年4月は速報。

款供与の増加から270百万ドルの大幅流出超(前月同182百万ドル)となった一方、外国資本は、外国人の対日証券投資の増加(流入超97百万ドル、前月同75百万ドル)にもかかわらず、ガリオア・エロア返済(19百万ドル)やインパクト・ローンの返済増高から、月中95百万ドルの流入超と流入超幅が若干縮小(前月同130百万ドル)したためである。

金融勘定では、為銀の対外ポジションが、輸出の好調に伴う買持輸出手形の増加にもかかわらず、外銀借入れの増加やユーロ・マネーの回収・取入れ増のほか、在日外銀の在外店からの自由円預金の受入れもあって、月中74百万ドル悪化し、外貨準備は月中238百万ドルの大幅増加となった。

3月の輸出は、前年同月比+20.7%、季節調整後の前月比では+1.6%の増加となった。商品別(通関ベース)にみると、化学肥料(前年同月比+73%)、人造プラスチック(同+45%)、鉄鋼(同+39%)、ラジオ(同+30%)、事務用機器(同+91%)等が引き続き高い伸びをみせた反面、綿織物(同-14%)、非金属鉱物(同-5%)等は低調であった。

なお、船舶は記録的な額に上ったものの、前年同月も高水準であったため、前年比伸び率(+9%)としてはそれほど高くなかった。仕向け先別には、西欧、中共、中南米向けが増勢を続けた一方、米国、中近東向けは伸びが鈍化した。

4月中の輸出信用状接受高は、前年同月比+21.8%、季節調整後の前月比では3月-7.2%のあと+6.7%の増加となった。季節調整後の3か月移動平均値でみると、1月+1.3%、2月-1.7%、3月0%と、依然高水準ながら、このところ米国向けの不振など

が響いて増勢はやや一服ぎみとなっている。4月の動きを品目別に前年同月比でみると、鉄鋼、機械、化学製品が伸長したほか、非鉄金属製品、食料品も久しぶりに増加したが、繊維製品は伸び悩み、自動車も前月集中の反動もあって微増にとどまった。地域別には欧州向けが著増、アジア向けも中共向けを中心に高水準を持続したが、米国向けは小幅増加にとどまり引き続き伸び悩み模様を示している。

3月の輸入は、前年同月比+33.2%と高い伸びを示し、季節調整後でも1、2月かなり増加のあと前月比+2.3%と引き続き増加した。品目別(通関ベース)にみると、鉄鋼くず(前年同月比+343%)、銅鉱(同+69%)等鉄鋼・非鉄原料が増加の中心となっており、このほか金属加工機械(同+75%)、事務用機器(同+50%)、化学製品(同+35%)、木材(同+38%)等も増勢を続けた。

先行指標である3月の輸入承認額も、前年同月比+33.9%、季節調整済み前月比+0.9%とかなり

#### 輸 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 入	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ り	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
44年								
1～ 3月	1,220 (+ 5.7)	909 (+ 2.8)	311	1,234 (+ 5.1)	1,153 (+ 2.6)	1,017 (+ 6.6)	1,260 (+ 2.6)	1,077 (+ 3.3)
4～ 6月	1,280 (+ 4.8)	942 (+ 3.7)	338	1,306 (+ 5.9)	1,176 (+ 2.0)	1,044 (+ 2.7)	1,355 (+ 7.6)	1,232 (+ 14.4)
7～ 9月	1,337 (+ 4.5)	1,056 (+ 12.1)	281	1,359 (+ 4.0)	1,337 (+ 13.6)	1,131 (+ 8.4)	1,414 (+ 4.4)	1,247 (+ 1.3)
10～12月	1,391 (+ 4.0)	1,089 (+ 3.1)	302	1,416 (+ 4.2)	1,345 (+ 0.6)	1,216 (+ 7.5)	1,513 (+ 7.0)	1,268 (+ 1.6)
45年								
1～ 3月	1,499 (+ 7.8)	1,167 (+ 7.1)	332	1,538 (+ 8.6)	1,479 (+ 10.0)	1,235 (+ 1.6)	1,584 (+ 4.7)	1,401 (+ 10.5)
44年 11月	1,363 ( 0 )	1,088 (- 0.9)	275	1,399 (+ 1.4)	1,335 (- 2.6)	1,220 (+ 2.9)	1,492 (- 0.5)	1,231 (- 6.3)
12月	1,445 (+ 6.0)	1,082 (- 0.5)	363	1,470 (+ 5.1)	1,328 (- 0.5)	1,242 (+ 1.8)	1,549 (+ 3.8)	1,259 (+ 2.3)
45年 1月	1,496 (+ 3.5)	1,137 (+ 5.1)	359	1,532 (+ 4.2)	1,458 (+ 9.7)	1,257 (+ 1.2)	1,555 (+ 0.4)	1,357 (+ 7.7)
2月	1,488 (- 0.5)	1,168 (+ 2.7)	320	1,518 (- 0.9)	1,459 ( 0 )	1,269 (+ 1.0)	1,563 (+ 0.5)	1,417 (+ 4.5)
3月	1,512 (+ 1.6)	1,195 (+ 2.3)	317	1,565 (+ 3.1)	1,521 (+ 4.3)	1,178 (- 7.2)	1,633 (+ 4.4)	1,430 (+ 0.9)

- (注) 1. 四半期計数は月平均額。  
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。  
3. 季節調整はセンサス局法による。



の増勢を続けた。品目別には、鉄鋼くず、非鉄金属鉱等が引き続き大幅な増加をみせたほか、機械が大型航空機の購入もあって高い伸びを示した。

なお、2月の輸入素原材料在庫(製造業、季節調整済み)は前月比-1.1%と減少したものの、同消費の減少幅のほうがやや大きかったため、同在庫率指数は92.4(前月比+0.9%)とわずかながら上昇した。

### 通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	44年		45年	45年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
食料品	169 (+ 52)	129 (+ 1)	125 (+ 22)	36 (+ 16)	41 (+ 38)	49 (+ 15)
魚介類	81 (+ 12)	82 (- 3)	59 (+ 12)	17 (- 4)	20 (+ 16)	22 (+ 24)
繊維製品	580 (+ 13)	662 (+ 8)	497 (+ 6)	113 (- 2)	181 (+ 8)	204 (+ 10)
綿織物	54 (- 10)	60 (- 18)	40 (- 21)	9 (- 26)	14 (- 25)	17 (- 14)
合繊維物	136 (+ 31)	166 (+ 27)	123 (+ 27)	26 (+ 22)	44 (+ 26)	53 (+ 32)
化学製品	291 (+ 33)	301 (+ 30)	287 (+ 44)	71 (+ 28)	105 (+ 60)	111 (+ 43)
非金属 鉱物製品	100 (+ 23)	105 (+ 11)	86 (+ 1)	23 (+ 10)	30 (+ 4)	34 (- 5)
金属製品	770 (+ 25)	870 (+ 31)	820 (+ 36)	208 (+ 41)	281 (+ 37)	331 (+ 34)
鉄鋼	559 (+ 23)	651 (+ 36)	633 (+ 41)	163 (+ 49)	213 (+ 39)	256 (+ 39)
機械機器 (船舶を除く)	1,859 (+ 27)	2,059 (+ 23)	1,933 (+ 27)	542 (+ 41)	596 (+ 23)	794 (+ 23)
テレビ	110 (+ 30)	100 (+ 16)	71 (+ 16)	19 (+ 16)	24 (+ 12)	28 (+ 20)
ラジオ	163 (+ 37)	174 (+ 33)	136 (+ 29)	34 (+ 24)	47 (+ 30)	56 (+ 30)
自動車	224 (+ 21)	267 (+ 25)	266 (+ 21)	77 (+ 31)	85 (+ 14)	104 (+ 21)
船舶	257 (- 8)	345 (+ 27)	397 (+ 35)	139 (+ 89)	87 (+ 37)	172 (+ 9)
光学機器	116 (+ 18)	124 (+ 13)	105 (+ 19)	26 (+ 21)	36 (+ 17)	42 (+ 20)
その他	471 (+ 22)	445 (+ 10)	383 (+ 15)	101 (+ 20)	132 (+ 15)	149 (+ 10)
合計	4,240 (+ 25)	4,571 (+ 20)	4,131 (+ 25)	1,093 (+ 30)	1,366 (+ 24)	1,672 (+ 22)
(船舶を除く)	3,983 (+ 28)	4,225 (+ 20)	3,734 (+ 24)	954 (+ 22)	1,279 (+ 24)	1,500 (+ 24)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

44年度の国際収支は、総合で1,989百万ドル(43年度黒字1,627百万ドル)と既往最高の黒字を記録した。これは、輸入の著増(前年度比+22.1%)にもかかわらず輸出が高水準を持続(前年度比+22.5%)したため、貿易収支が大幅な黒字(3,732百万ドル、前年度同3,018百万ドル)となったこと、外国人の対日証券投資(流入超782百万ドル、前年度同344百万ドル)が増加したこと、輸入増に

### 通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	44年		45年	45年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
食料品	538 (+ 21)	584 (+ 20)	579 (+ 15)	175 (+ 8)	197 (+ 18)	207 (+ 19)
小麦	75 (+ 2)	75 (+ 3)	82 (+ 13)	24 (+ 26)	27 (+ 11)	30 (+ 6)
とうもろこし	54 (+ 1)	72 (+ 15)	74 (+ 26)	26 (+ 19)	23 (+ 19)	24 (+ 45)
砂糖	48 (+ 85)	56 (+ 75)	58 (+ 11)	18 (+ 12)	19 (+ 15)	21 (+ 7)
原燃料	2,176 (+ 17)	2,316 (+ 18)	2,421 (+ 26)	789 (+ 20)	767 (+ 27)	865 (+ 32)
羊毛	108 (+ 17)	87 (- 6)	97 (- 3)	31 (- 4)	31 (- 1)	34 (+ 2)
綿花	97 (- 14)	104 (- 11)	111 (+ 2)	32 (- 5)	37 (- 6)	42 (+ 18)
鉄鉱石	253 (+ 20)	255 (+ 16)	265 (+ 22)	90 (+ 23)	87 (+ 29)	89 (+ 15)
鉄鋼くず	66 (+ 103)	70 (+ 30)	66 (+ 108)	24 (+ 30)	18 (+ 138)	23 (+ 343)
大豆	69 (+ 5)	77 (+ 10)	87 (+ 33)	33 (+ 17)	30 (+ 34)	25 (+ 60)
木材	337 (+ 12)	342 (+ 15)	338 (+ 28)	106 (+ 21)	108 (+ 25)	125 (+ 38)
石炭	185 (+ 37)	184 (+ 36)	188 (+ 26)	56 (+ 33)	63 (+ 15)	69 (+ 33)
原油	456 (+ 13)	536 (+ 18)	544 (+ 17)	174 (+ 13)	165 (+ 15)	205 (+ 23)
化学製品	195 (+ 12)	209 (+ 9)	239 (+ 29)	79 (+ 20)	76 (+ 34)	83 (+ 35)
機械機器	438 (+ 43)	429 (+ 23)	561 (+ 54)	160 (+ 69)	183 (+ 42)	217 (+ 56)
鉄鋼	50 (- 11)	66 (- 13)	81 (+ 24)	24 (+ 39)	22 (- 17)	35 (+ 64)
非鉄金属	244 (+ 68)	256 (+ 35)	262 (+ 24)	94 (+ 38)	86 (+ 26)	83 (+ 9)
その他	243 (+ 36)	260 (+ 39)	259 (+ 51)	83 (+ 45)	83 (+ 49)	93 (+ 59)
合計	3,883 (+ 23)	4,120 (+ 20)	4,403 (+ 29)	1,405 (+ 25)	1,415 (+ 27)	1,583 (+ 33)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

## 国際収支（年度間）

（単位・百万ドル）

	43年度	44年度	変 化
経 常 収 支	1,520	2,084	564
貿 易 収 支	3,018	3,732	714
輸 出	13,465 (+27.3)	16,493 (+22.5)	3,028
輸 入	10,447 (+10.6)	12,761 (+22.1)	2,314
貿 易 外 収 支	△ 1,329	△ 1,456	△ 127
移 転 収 支	△ 169	△ 192	△ 23
長 期 資 本 収 支	△ 82	△ 648	△ 566
基 礎 的 収 支	1,438	1,436	△ 2
短 期 資 本 収 支	88	368	280
誤 差 脱 漏	101	185	84
総 合 収 支	1,627	1,989	362
金 融 勘 定	1,627	1,989	362
外 貨 準 備 増 減	1,250	655	△ 595
そ の 他	377	1,334	957
外 貨 準 備 高	3,213	3,868	655
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 830	395	1,225

- （注） 1. △印は赤字、ただし為銀対外ポジションの△印は負債超過、  
「変化」欄の△印は悪化。  
2. カッコ内は前年度比増減率（％）。

付随したBCユーザンス等短資の流入がかさんだことなどによる。この間、金融勘定では、為銀の外銀借入れ等短期負債が年度間を通じては微増にとどまったのに対し、買持輸出手形が輸出好調を映じて大幅に増加したため、為銀の対外ポジションは年度間1,225百万ドルの著しい改善（前年度同404百万ドル）を示し、年度末には395百万ドルの資産超過（前年度末830百万ドルの負債超過）となった。一方、外貨準備は年度間655百万ドル増加（前年度中1,250百万ドル増）し、年度末残高は3,868百万ドルと既往最高を記録した。